

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104548
法人名	吉野有限会社
事業所名	グループホームよしの
所在地	松山市平田町19-2
自己評価作成日	平成24年2月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームページ <http://web.me.com/yoshinoco>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年2月25日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 事業所では、「てづくりなふれあい」という理念のもと、利用者とともに、「手作りの食事」に力を入れて取り組んでおられる。栄養士資格を有する法人代表者が、1週間単位で献立を立て、事業所で食事を手作りされている。利用者は、野菜の下ごしらえや下膳されたり、食器を職員と一緒に洗ったりされている。梅干しや漬物は塩分が多いため使用せず、利用者からは、カレーやお寿司のリクエストが多く、よく作っておられる。
- 昼食後には、ほとんどの利用者が国道沿いの歩道を散歩されている。散歩の途中で、コンビニに立ち寄り、個人のおやつを買われる方もいる。月に1～2回は、近くの飲食店に昼食を食べに行かれており、利用者の気分転換にもなっている。月2回、パンの移動販売車が来てくれ、利用者は事業所の駐車場に出て、好みのパンを買って、夕食や朝食時に食べるのを楽しみにされている。初詣、お花見や菊花展、坊っちゃん劇場等、ドライブしたり外出を楽しまれている。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームよしの

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

吉野毅

評価完了日

平成24年2月16日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)  ホームでは事業所独自の理念を設定しており日々のケア等を通して職員に伝えている	
			(外部評価)  事業所では、「てづくりなふれあい」という理念のもと、利用者とともに、「手作りの食事」に力を入れて取り組んでおられる。居間に事業所の理念を掲示しておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)  隣接した医療機関の患者さんや職員などと挨拶を交わしたりする機会が多い また散歩時やホームでの外出時等、近所の方や地域の方と会う機会があり笑顔で挨拶ができています	
			(外部評価)  地域の秋祭りには、おとな神輿・こども神輿が事業所前の駐車場で休憩をするので、利用者は、神輿に触れたり、子ども達に、お菓子を振る舞う等して楽しめました。散歩途中、よく立ち寄るコンビニのお店の方と顔馴染みとなり、利用者にひざ掛けのプレゼントをしてくださったこともある。普段も近くのお店に買い物に行ったり外食をされたりしている。事業所前の道路は、愛媛マラソンのコースになっており、参加された隣の病院の医院長を、利用者は沿道に出て応援をされた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)  管理者は、地区の公民館などでの講演の際、ホームの役割などについて地域住民に説明している ホームページを開設し日々の利用者の様子や職員との触れ合い等各種の情報を提供している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 家族の代表や地区の民生委員行政職員を交えた運営推進会議をホームにおけるサービス向上のために活かせるよう運営している</p> <p>(外部評価) 会議は、併設の小規模多機能事業所と合同で行っておられる。会議では、事業所が困っていることについて報告して話し合ったり、行事に参加いただき、利用者の様子を見ていただくようにすすめておられる。会議は、すべてのご家族に参加いただけるよう、事業所から順番にご家族を指名してお願いされている。</p>	<p>今後、ご家族に会議の内容を報告する等、会議の意義等も伝えながら参加や協力を働きかけていかれてほしい。又、地域からの参加者を増やして一緒に勉強したり、一緒に活動するような機会も作ってみてはどうだろうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 法令遵守責任者を定め、法令の理解が困難な場合など、その都度行政機関に問い合わせその内容を把握するよう努めている</p> <p>(外部評価) 市の担当者には、運営推進会議に参加していただき、事業所で困っていることについて知ってもらったり、利用者の状態や生活について相談されている。又、友輪荘等、要介護者に必要な設備のある外出先を紹介いただいた。市社協の方からは、外部研修の情報もいただいている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 御家族から転倒の予防や事故防止のため安全ベルトの着用の強い要請があり身体拘束の書類を毎月発行し、家族の了解を得た上で最小限の身体拘束を実施している。</p> <p>(外部評価) 普段、玄関の自動ドアの電源を切っておられ、出入り時には、職員が開けるようになっている。ご家族からの強い要望もあって、車いすを使用する際、転倒予防のために安全ベルトを着けている利用者がある。運営推進会議時に、ご家族も参加していただき、「身体拘束」をテーマに話し合いを行われた。ご家族に「少しずつ理解が広がってきている」と管理者は話しておられ、ご家族の来訪時や職員が目が届く時には、安全ベルトを外すように取り組まれている。他の利用者に対して口調や言葉がきついような利用者もあり、ご家族と相談して、居室で過ごしていただく等されており、調査訪問時には、ご本人が気分転換できるよう外食に行かれていた。</p>	<p>安全ベルトを着けることについて、職員は「利用者は、不愉快ではないか」と感じておられる。利用者の安全と自由という面から、職員、ご家族一緒に考えたり、勉強するような機会を作り、身体拘束をしないケアの実践に向けて、工夫や配慮できることはないか、話し合いを続けていかれてほしい。</p>

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  管理者はホーム内で虐待が発生しないよう職員への意識徹底に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  必要性の高い利用者に対し、利用者と家族と行政との間に立ち、その活用について積極的に助言した	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約前に、利用者や家族からの質問について面接形式で返答している	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  市役所、国保連合会の連絡先を記載したものを書面で渡ししており、その苦情の活用のためファイルにまとめている	
			(外部評価)  ご家族が来られることも多く、その都度、職員が利用者の様子を報告されている。ホームページでは、事業所の取り組みをブログにアップされており、インターネットが見られないご家族のために、ブログの中から抜粋したものを玄関に掲示されたり、写真を見ていただけるようにされている。ブログを見てくださったご家族からは、「職員のことがわかってよかった」と感想をいただいた。行事の際には、個別に電話で知らせておられ、お花見時には、ご家族も数名参加され、利用者と一緒に弁当を食べて過ごされた。	ご家族との関係をさらに深めていくためにも、運営推進会議で話し合ったような内容を報告されたり、ご家族とともに勉強したり活動するような機会も積極的に作り、事業所のことをより具体的に知っていただきながら、意見や要望を引き出していかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			介護の現場の中で、ホーム長が意見や提案を聴き問題点には答えるようにしている	
			(外部評価)	
			数か月に1回行われる職員ミーティング時に、職員は意見や提案を出し、話し合いながら取り組みをすすめておられる。親睦を兼ねて、食事をしながらミーティングを行うこともある。職員からの提案で、トイレには、排便時等、息みやすいよう可動式の手すりを設置された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員相互間で注意しあえる雰囲気づくりに努めており、職員同士の意欲、仕事に対するの取り組み方等の向上に努めている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修内容に応じて管理者が指名した職員に受講させている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			同業の運営者に依頼し、他の施設での職員研修の受け入れを依頼した	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			緊急な利用開始の場合にできないことが多いが、本人の要望を反映できるように努めている	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			緊急な利用開始の場合にできないことが多いが、家族の要望を反映できるように努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			相談を進めた結果、他の介護サービス利用を勧め、居宅介護支援事業書への橋渡しをしたことがある	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			一人ひとりのその日の状況に応じて家事等を共に行き支え合えるような状況を築いている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			ご家族も介護資源の一つととらえ、通院介助等をお願いすることで、疎遠になりがちな家族関係の再構築に尽力した	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			緊急な利用開始の場合にできないことが多いが、要望があれば利用開始前に遊びに来て頂ける機会を設けている	
			(外部評価)	
			お孫さんと文通する利用者をサポートされたり、趣味のパッチワークの展示会を見に行かれた。ラジオを聴き、俳句番組に投句する利用者もサポートされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			精神疾患がある方など利用者の状態は様々であり、その事も念頭に置き座席等も配慮している	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			終了後の利用者の方の安否について協力医療機医師に確認し、機会があれば利用できる旨を伝えてもらっている	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			センター方式のアセスメントを実施し把握に努めているまた日常会話からも思いや希望を伺うこともある	
			(外部評価)	
			センター方式のアセスメント表を使用し、得られた情報は追加するようになってきている。利用者との会話の中に出てくる人の名前について「利用者とのどのような関係か」等、ご家族の来訪時にお聞きすることもある。利用者の気持ち等も知りながら、ケアにつなげられるように努力されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			アセスメントを実施しその人そのひとの暮らしの歴史、暮らし方等の把握に努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			アセスメントを実施しその人そのひとの暮らしの歴史、暮らし方等の把握に努めている	



## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			御家族の訪問の際ケアへの方向性を伺い計画に反映しているまた各職員の意見や気づいた点を収集し介護計画に反映している	
			(外部評価)	
			介護計画は、3ヶ月ごとに見直しておられる。モニタリングは、2ヶ月経過後に職員が、日々の介護記録に記入されている。職員で話し合い作成した介護計画は、ご家族に持ち帰っていただき、支援内容等をゆっくり確認してもらい、ご家族からの意見も計画に採り入れるようにされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			管理者の指示のもと、各種記録物の作成、介護計画の立案を配慮した内容にしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			利用者家族の急用時に唐突な依頼にもホーム長をはじめスタッフで確認・話し合いをしてスムーズに対応し感謝された事が有る	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			会議の開催、行事、各種訓練などの際、地域の様々な方の力を借りて実施しているのが現状である	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 管理者と協力医療機医師とで、かかりつけ医に対して適切な医療が受けられるよう連絡調整した</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者が、隣接の系列病院をかかりつけ医とされている。病院の看護師が毎日来られ、利用者の健康状態をチェックして、医師の診察が必要と判断した場合は、受診するようになっている。その他の医療機関の受診時は、ご家族が付き添っておられる。又、訪問歯科を利用される方もある。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) ホームと協力医療機関間に内線電話を引き気軽に相談できるような環境を整えている</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 在宅から救急車で運ばれた利用者に対し、管理者と協力医療機関医師が搬送病院に働きかけ、早期退院を現実のものとした</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 早い段階からの話し合いはなされていないが、終末期に家族の意向を確認しながら、複数の利用者の看取りを行った。</p> <p>(外部評価) 入居説明時には、事業所の方針に沿って看取りの支援について説明されている。ご家族からは、「その時になってみないとわからない」と言われる方がほとんどのようだ。状態変化時には、医師とご家族と話し合いながら支援されており、今年度は、2名の利用者の看取りを支援された。飲み込みが悪くなった利用者には、水分もゼリー状にされたり、食事の調理方法についても食べやすく配慮して支援された。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  緊急時対応マニュアルを整備しており各職員が理解して対応できる様にしている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  管理者はホームのすぐ近くに生活している職員に対し、緊急時には駆けつけてもらえるよう要請している  (外部評価)  年2回、火災を想定した避難訓練を行っておられ、利用者も参加されている。内、1回は、消防署の方の指導のもと行っておられる。	さらに、災害のいろいろな場面を想定して訓練や話し合いを重ね、すべての利用者、職員が安全に避難できるような方策を検討されてほしい。地域の自主防災組織との連携等、地域とも協力し合って、取り組みをすすめていかれてほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  管理者は、尊厳有るひとりの人間として利用者に接するよう、常日ごろから職員に対し注意喚起している  (外部評価)  食べこぼしがあった場合には、トイレ介助等を捉えて、着替えてできるよう支援されている。前回の調査訪問時に、職員は、利用者を、「おばあちゃん」と呼んでいる様子がみられたが、現在は、「〇〇ちゃん、〇〇さん」と呼んでいる様子がみられた。調査訪問時の外食時、車椅子のフットレストの上げ下げやメニュー選び等、ご本人ができることはご本人が行うように見守っておられた。	職員の利用者への言葉かけや対応等について、利用者の立場に立ち、この機会に点検され、事業所のケアサービスのさらなる質向上に向けて、取り組みをすすめていかれてほしい。又、運営推進会議時やご家族等にも意見をお聞きする等、利用する側や第三者の感想や意見を、取り組みのきっかけにされてはどうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  日々のコミュニケーションを大事にしている 必要な物がある場合には一緒に買いに行き自分で選べるような支援をしている	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	今日は体調が悪いから少し休みたいという方にはいつもより長く休んで頂けるよう支援している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	化粧品が欲しいという方と一緒に買い物に行き希望の商品を購入して頂いた。3ヶ月に1回程度、同じ理容師さんをお願いし世間話をしながら散髪してもらっている。ヘアスタイルやカラーをしたりとおしゃれが出来るよう努めている
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	食事の準備は、持っている力を発揮できる一つの機会であるととらえ、できる事は協力してもらうことで生活に張りを持ってもらえるように努めている
			(外部評価)	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	主治医、栄養士と相談し対応している
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	口腔状態が特に気になる方には毎食後口腔ケアを実施している 最低でも就寝前に口腔ケアの声かけをし行ってもらっている 独力でできない人には介助し実施している

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	入居時はおむつを使用していたが職員の声かけとトイレ誘導を行うことでリハパンに変更しトイレでの排泄が習慣になってきている	
			(外部評価)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	繊維質の献立を多くしたり、協力医療機関とも連携をとりながら、適切な便秘予防を実践している	
			(外部評価)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	外来受診時と重なるときには曜日を変更しゆっくり気兼ねなく入浴できるようにしている	
			(外部評価)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	馴染みの枕や布団を使用し安眠できるようにしている 状況、希望に応じて冷暖房をつけている	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の処方箋を確認している 管理者と協力医療機関関係者が連携しながら、適切な服薬が行えるよう援助している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お話が好きな方には積極的に話しかけ他者とも楽しく過ごせるよう支援している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望があった時は時間を見計らい応じているそれに合わせ他者と一緒に戸外に出るきっかけになっている  (外部評価) 昼食後には、ほとんどの利用者が国道沿いの歩道を散歩されている。散歩の途中で、コンビニに立ち寄り、個人のおやつを買われる方もいる。月に1~2回は、近くの飲食店に昼食を食べに行かれており、利用者の気分転換にもなっている。月2回、パンの移動販売車が来てくれ、利用者は事業所の駐車場に出て、好みのパンを買って、夕食や朝食時に食べるのを楽しみにされている。初詣、お花見や菊花展、坊っちゃん劇場等、ドライブしたり外出を楽しまれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 御家族相談の上、ホームで現金を預かっている方でもレジの支払いの際など一緒に支払えるよう援助している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 管理者は、利用者からの要望に応じ、暑中見舞いのはがきの手配などを行い、返信などは声かけしながら手渡している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)  共有空間は清潔に保たれており、居心地の良い空間となっている 共有空間の壁面には季節毎の飾り付けをしている	
			(外部評価)  調査訪問時には、壁に、折り紙で作ったお雛様を貼っておられ、テーブルのお花は利用者が生けてくださっていた。手作りの足置きを使っている方もいる。敷地内にある桜が咲く季節には、隣接病院の看護師の方達も一緒にお弁当を食べながら、お花見を楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)  ソファで気のあった方同士がお話するのをよく見かける 皆と一緒にいたくないが、部屋で独りぼっちも嫌な状況下に有る利用者の方が、くつろげるような場所がある	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)  以前利用していた机、タンスを持参され見慣れた以前と変わらない光景で安心して過ごされている 御本人の馴染みの持ち込みを促し、その人らしい環境づくりに配慮している	
			(外部評価)  調査訪問時、ご家族の来訪があり、居室で利用者と一緒に過ごされていた。居室には、ご家族の写真を飾っておられたり、ベットに座り、テーブルで俳句作りをされる方もいる。長時間を居室で過ごす方のお部屋には、食事時間を書いて貼っておられる。おむつ等介護用品は、布をかけて外部から見えないようにされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)  入居間もない方に居室が一目で分かるように目印をつけ混乱を防いだ	
			(外部評価)	